

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhel@oh-Kouhel.org



皆さん、こんにちは。もうすぐゴールデンウィーク。気温も上がりますが、このころ、ガソリンも値上がりしています。車で遠出しにくいですね。

★百五十兆円はどいつ?

ガソリンの値段が上がっているのは、もちろん中東の原油価格が上昇していることが主因です。でも、原因はそれだけでしょいか。

実は、原油をはじめとした原材料価格の上昇の背景には、世界中で金融緩和が行われていることが影響しています。中でも、日本の金融緩和はダントツ、世界一です。

ゼロ金利政策とか、量的緩和政策とか、あまり馴染みのない言葉を新聞やテレビで見聞きされたことがあると思います。こうした世界的にも例のない超金融緩和政策が始まって既に十年。過去十年間に、本来であれば(=金利

が正常な水準であれば)預金者や家計が得た利息収入は百五十兆円と言われています。谷垣財務大臣や福井日銀総裁もそれを国会で認めています。逆に言えば、それだけの所得を過去十年に失ったということです。たいへんなことですね。

さて、その百五十兆円はどこにいったのでしょうか。この十年、多くの銀行や企業の再建に公的資金が費やされました。面倒くさい理屈は省略しますが、超金融緩和政策でジャブジャブに供給されているお金は、世の中をグルッと巡って、間接的にそうしたところに回っていったということです。必要な面もあったでしょうが、弊害も小さくありません。

★日銀が政府の資金繰り?

日銀は今も大量のお金を供給しています。ただし、日銀は銀行にしかお金を出せない

仕組みになっています。銀行がそのお金を企業や家計にドンドン貸してくれればいいのですが、残念ながら、そのお金の大半は国債の購入に回っています。

ジャブジャブのお金は、日銀から銀行へ、そして銀行から国債(政府)へ。ということは、要は日銀から政府に流れ、日銀が政府の資金繰りを助けていることになります。

法律では、原則として、日銀が政府の資金繰りを助けてはいけないことになっています。政府のムダ遣いにつながりますから。谷垣大臣や福井総裁はこのことをどのように考えているのでしょうか。

この問題も国会でたびたび議論されますが、なかなか改まりません。財政政策や金融政策の正常な運営が行われるように、引き続き議論を続けなくてはなりません。

覚王山近辺の名店を続々紹介します！

—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します！ ——
＜今回は、「田代食品」さんです＞

食料品専門店「田代食品」さんは、日泰寺参道入口の覚王山ビル1階、ローソンの奥にあります。

所狭しと並ぶ美味しさにこだわった食料品の数々。元は写真店を営んでいた先代の水野知一さんが1945年に「食糧難の時代にはやっぱり食べ物が一番」と親戚の縁を頼ってここ覚王山に食料品店を開きました。

転機が訪れたのは今から30年前。二代目の水野修一さんは東京・青山のスーパーマーケット・紀ノ国屋で、当時としては見るも珍しい食料品に衝撃を受け、「名古屋の人にも紹介したいという気持ち」で他店に先駆けて取り扱い始めました。

お店の自慢は何と言っても品質。安全で身体に良く、かつ美味しい食品を厳選しています。「食という字は『人に良い』と書く。これが基本だ。」と店長は語ります。

「食」を追及し続ける田代食品さんは5月5日に創業60周年を迎えます。

田代食品 tel: 762-1147 (日曜定休)

